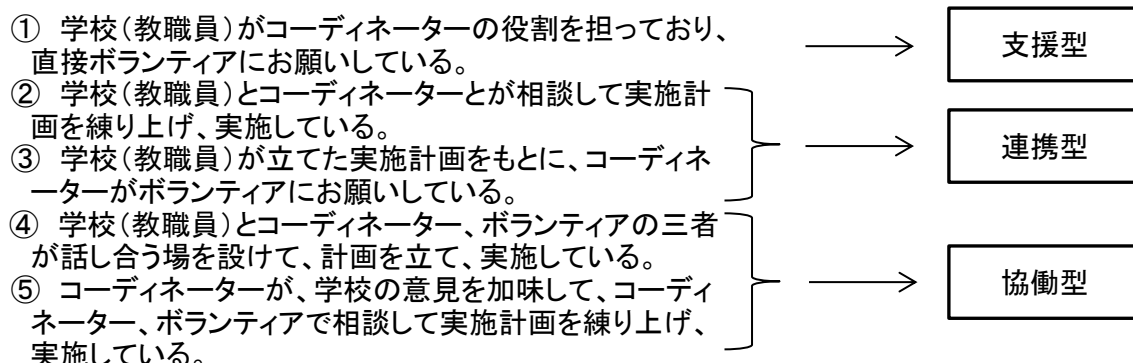


## 【主なクロス集計結果及び分析】

各学校における取組の計画から実行までの手順の在り方

P2(1)の回答をもとに、次の3つのレベルに分類しました。



※ 支援型から連携型または、協働型へと学校と地域の関係が成熟していくにつれて、以下の4つのことをすることが、パートナーシップ事業の効果と結びついているコーディネーターの認識が高くなる傾向がある。

その項目が、パートナーシップ事業の効果に結びついていると認識しているコーディネーターの割合

項目	支援型	連携型	協働型	平均
学校がボランティアに期待する活動の内容を明確化	52.9	83.1	80.0	71.0
学校が望むボランティアの確保	55.9	69.9	76.6	64.2
ボランティアの力量や意欲の向上	52.9	78.3	77.5	67.9
ボランティアの特技や経験を活かした活動の実施	60.0	87.9	83.4	76.5

※ 支援型から連携型、協働型へと学校と地域の関係が成熟していくにつれて、この事業は、「地域住民の学校に対する理解の深化」に対しても効果があると認識しているコーディネーターの割合が増加している。

パートナーシップ事業に参加して、地域住民の学校に対する理解が深化したと感じているコーディネーターの割合	支援型	連携型	協働型	平均
	62.9	74.7	87.5	71.6

### <分析>

コーディネーターとボランティアのつながりやコミュニケーションを促進するためには、学校(教員)との協議が一定の効果があり、コーディネーターは、地域の理解に支えられることにより、パートナーシップ事業の推進が進めやすくなると考えられる。

※ 「連携型」とは、子どもの教育課題を共有、協議し、具体的な改善に取り組む関係性が学校と地域にある状態をいいます。

「協働型」とは、目指す姿の実現に向けて、それぞれが主体的で具体的な活動を重ねる関係性が学校と地域にある状態をいいます。

※ コーディネーターとして、力を入れて取り組んでいる活動(P6(1))とコーディネーターの事業効果感(P8上の図)と高い相関があるものは次の表のとおり

学校と地域、ボランティア等との連絡調整	子どもの学習に対する興味関心や意欲の向上
	子どもの学習習慣の改善
	地域住民の学校に対する理解の深化
	地域の教育力の向上
	ボランティアが学習支援することによる教育内容の充実
	教職員が子どもと向き合う時間の増加

※ コーディネーターとして、力を入れて取り組んでいる活動(P6(1))と事業効果に結びついているとコーディネーターが認識している項目(P8下の図)と高い相関があるものは次の表のとおり

学校と地域、ボランティア等との連絡調整	「学校コミュニティ協議会(仮称)」における熟議の充実
	学校がボランティアに期待する活動の内容を明確化
	ボランティアの力量や意欲の向上
	コーディネーターの力量や意欲の向上
	コーディネーターとボランティアとの円滑なコミュニケーション
	教職員の理解と協力の確保

### <分析>

「学校と地域、ボランティア等との連絡調整」に力を入れて取り組んでいるコーディネーターは、パートナーシップ事業の効果について、おおむね高く評価している。また、ボランティアの立場として活動しているコーディネーターが、より学校に近い存在に育ち、子どもを核とした熟議や取組に参画することで、さらに効果感が増すと考えられる。

※ 学校の要望把握(P6(2))と事業効果に結びついているとコーディネーターが認識している項目(P8下の図)と高い相関があるものは次の表のとおり

学校コミュニティ協議会(仮称)等で把握している	「学校コミュニティ協議会(仮称)」における熟議の充実
	学校ボランティアに期待する活動の内容を明確化
	学校が望むボランティアの確保
	コーディネーターの力量や意欲の向上
	コーディネーターとボランティアとの円滑なコミュニケーション
	教職員の理解と協力の確保
	PTAの理解と協力の確保
	地域住民組織等の理解と協力の確保
	地域の関係機関との連携の確保

必要に応じて、教職員と打合せをしている	学校が望むボランティアの確保
	コーディネーターの力量や意欲の向上
	ボランティアの特技や経験を活かした活動の実施
	教職員の理解と協力の確保
	PTAの理解と協力の確保
	地域住民組織等の理解と協力の確保
	学校内に本事業の活動場所を設置
	地域の関係機関との連携の確保

### <分析>

目的や課題等の意識を持って、コーディネーターが学校コミュニティ協議会(仮称)の充実や必要に応じた学校と打合せにより、学校の要望を的確に把握することから、様々な手立てを講じて事業効果に結びつけることができると考えられる。

※ ボランティアの要望把握(P6(3))と事業効果に結びついているとコーディネーターが認識している項目(P8下の図)と高い相関があるものは次の表のとおり

ボランティアと定期的に打合せをしている	ボランティアの力量や意欲の向上
	ボランティアの特技や経験を活かした活動の実施
	コーディネーターの力量や意欲の向上
	コーディネーターと学校との円滑なコミュニケーション
	コーディネーターとボランティアとの円滑なコミュニケーション
必要に応じて、ボランティアと打合せをしている	「学校コミュニティ協議会(仮称)」における熟議の充実
	学校が望むボランティアの確保
	ボランティアの力量や意欲の向上
	地域住民組織等の理解と協力の確保
	地域の関係機関との連携の確保
ボランティアと一緒に活動する中で把握をしている	ボランティアの力量や意欲の向上
	コーディネーターの力量や意欲の向上
	コーディネーターと学校との円滑なコミュニケーション
	コーディネーターとボランティアとの円滑なコミュニケーション
	学校内に本事業の活動場所を設置

### <分析>

**コーディネーターとボランティアが情報交換をして、要望を的確に把握していると、互いのつながりが生まれ、地域の関係が密になり、事業を支える源となると考えられる。**

#### 【調査対象】

- ① 事業実施校  
31市町村213校・園  
(小学校:143校、中学校:68校、小中一貫校:1校、幼稚園:1園)
- ② 地域コーディネーター  
31市町村163箇所 計163名  
(小学校:111名、中学校:43名、小中一貫校:1名、幼稚園:1名、中学校区:4名、教育委員会:3名)

【調査時期】 平成28年1月～2月